海の学び ミュージアムサポート Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

神奈川県立歴史博物館

「海にまもられた日本」―北方の海からの開国に関する基礎的研究―

調査研究期間：平成２７年６月１日（月）～平成２８年４月３０日（土）

【調査研究の内容・目的】

■神奈川ならではの歴史である、江戸時代後期から始まった三浦半島の防衛体制の強化や、「開国」の契機が、18 世紀末のロシア船の来航にあったことをテーマとする展覧会準備を目的として実施しました。

■日本にとって 18 世紀末までの海は、外国船の日本への接近を制限する自然の要害としての機能持っていましたが、その一方で、人・もの・情報をつなげる交流の場であることを示す、「海を学ぶ」教育プログラム制作に必要な資料収集を行いました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

１．調査研究内容の詳細

【調査研究代表者】
■嶋村元宏（神奈川県立歴史博物館　主任学芸員）
【調査研究分担者】
■なし
【実施計画】
■1 ヶ年計画 1 年目
【主な調査研究対象など】
■大黒屋光太夫記念館
■根室港周辺地（ラクスマン上陸地など）
■古河歴史博物館（重要文化財　鷹見泉石歴史資料）
■長崎歴史文化博物館
■真田宝物館

1. 天理大学附属天理図書館（奈良県天理市）平成 27 年 7 月 21 日

○ 日露関係資料「北狄事略」、「ヲロシア人物并小屋内図」他 1 点を閲覧し、展示での活用を探った。

2. 大黒屋光太夫ゆかりの地（三重県鈴鹿市）平成 27 年 7 月 22 日

○ 大黒屋光太夫記念館が設立されている鈴鹿市若松は、光太夫生誕地であり、また前日２１日に宿泊した鈴鹿市白子（しろこ）は、光太夫が漂流前に出港した湊であったことから、光太夫に関連して設置された供養塔（鈴鹿市指定文化財・右写真）や記念碑などを調査した。

3. 大黒屋光太夫記念館（三重県鈴鹿市）平成 27 年 7 月 22 日

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

○　大黒屋光太夫記念館を所管する鈴鹿市文化振興部学芸員から資料に関する解説を受けつつ、大黒屋光太夫の遺品類、光太夫直筆のロシア文字の書などを閲覧し、江戸時代後期における日露関係の端緒となった光太夫の歴史的位置について再確認を行った。

4.　松前城周辺ロシア使節ラクスマン応接地（北海道松前郡松前町）

平成27年８月31日

○　寛政４（1792）年に根室に来航したロシア使節ラクスマンは、翌年箱館（函館）から当時蝦夷地を支配していた松前藩の居城がある松前まで陸路で移動したことから、その足跡をたどると共に、応接地周辺の現況を調査した。

根室から箱館まで船で移動したラクスマン一行は、
そこから陸路で松前へ向かい、「沖口（おきのくち）
役所」で応接された。写真はその入口。

《石碑　沖口役所》

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

5. 函館市中央図書館（北海道函館市）平成27年９月１日

○ 函館市中央図書館所蔵日露関係資料６件25点を調査・撮影し、特別展示における効果的な展示方法について探った。

6. 北海道大学附属図書館（北海道札幌市）平成27年９月２日

○ 北海道大学附属図書館北方資料室所蔵日露関係資料６件を調査・撮影し、特別展示における効果的な展示方法について探った。

7. シパンベルグ上陸地周辺（野付半島・北海道野付郡別海町）

平成27年10月20日

○ ロシア人が初めて蝦夷地に上陸した地である野付半島の原風景を確認、撮影した。

○ 正式なロシア使節として派遣されたラクスマンが、寛政４年に根室へ来航する以前に、ロシアの探検隊がはじめて蝦夷地に上陸したのがこの野付半島であった。ここは今日まで、大規模開発が行われていないことから、当時の原風景をとどめていると考えられる。

《石碑　野付半島》
付け根から10㎞ほど半島が左曲がりに伸びている。

《野付半島先端の燈台》
撮影地点より先は立入禁止区域。左前方10㎞に国後島がある。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

8.　ラクスマン・ロシア使節入港地周辺（根室港・北海道根室市）

平成 27 年 10 月 21 日

○　根室市歴史と自然の資料館・猪熊樹人学芸主査の案内により、根室へ来航したラクスマン縁の地をめぐり、最新の研究成果にもとづき、現地の状況を確認すると共に、撮影を行った。訪問地は、根室港弁天島（ロシア使節上陸・宿営地）、高台にある金比羅神社（当時の画像資料にも描かれている根室港を鳥瞰するため）、ロシア商人上陸・宿営地（国道 53 号付近）、である。調査日である 10 月 21 日は、1792 年 10 月 20 日にラクスマンが根室港の弁天島へ上陸した日とほぼ同じである。

《弁天島》
ラクスマン使節が最初に上陸した根室湾に浮かぶ島。

ラクスマン来航以前に、ロシア人商人が逗留していたアイヌの部落があった。

9.　もりおか歴史文化館（岩手県盛岡市）平成 27 年 12 月８日～９日

《もりおか歴史文化館》正面入口

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

○　寛政 11（1799）年、江戸幕府が蝦夷地（現在の北海道）を直轄したことにより、その警衛を担わされた盛岡藩の活動状況を知るため、南部家文書中の関係資料について、調査並びに撮影を行った。特に、レザノフの配下によってエトロフが襲撃された際の対応に関する資料を得た。

10. 古河歴史博物館（茨城県古河市）平成 27 年 12 月 17 日

○　重要文化財「鷹見泉石歴史資料」に含まれる日露関係資料の閲覧・撮影を行った。調査対象資料には、古河藩家老鷹見泉石自らがロシア語文献を写した資料や、大黒屋光太夫から直接贈呈されたロシア語の書付等が含まれ、当時のロシア情報の収集活動を具体的に示すものであることを再認識できた。

11. 宮城県図書館（宮城県仙台市泉区）平成 27 年 12 月 18 日

○　蘭学者大槻玄沢直筆本などのロシア関係資料を熟覧し、展示等に活用可能な部分を中心に撮影した。

12. 北見市立中央図書館（北海道北見市）平成 28 年２月６日

○　文化３年から翌４年にかけて、ロシア軍艦が蝦夷地を襲撃した事件の対応について、松平定信が自ら認めた草案である『松平定信筆「蝦夷地一件意見書草案」四巻』を閲覧・撮影した。また、本資料の来歴などについても聞き取り調査を行った。

《北見市立中央図書館》正面入口。
北見駅に隣接している。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

13. 長崎市内日露関係地（長崎県長崎市）平成 28 年２月 16 日

《ロシア人墓地》稲佐山の麓にある外国人共同墓地の一角がロシア人の区画になっている。

《梅ヶ崎ロシア仮館跡》文化元年長崎に来航したレザノフ・ロシア使節一行は、出島にほど近い長崎湾に面した梅ヶ崎に上陸し、仮館に逗留した。現在は市民病院の一角になっている。

○　1804 年に来航したロシア使節レザノフが幕府の許可を得て仮宿泊所とした場所の現在地ならびに、1859 年以降来日したロシア人に関係の深い、稲佐山地区に点在する史跡を実見し、撮影を行った。

14. 長崎歴史文化博物館（長崎県長崎市）平成 28 年２月 17 日

○　長崎歴史文化博物館所蔵の日露関係資料 16 点を閲覧し、重要箇所について撮影を行った。また、深瀬公一郎学芸員より、長崎湾へ入港する船の航路について、貴重な情報を得た。

15. 長崎湾周辺（長崎県長崎市）平成 28 年２月 18 日

《高鉾島》長崎入港に際し必ずこの高鉾島周辺で停船することが義務づけられていた。外国人は、この島をパペンベルグと呼び、キリスト教迫害の象徴としてひろく知られていた。

《長崎港》オランダ船は、湾の真ん中を進み、正面右奥に出島付近に碇泊した。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

○　来航した外国船が必ず碇泊を義務づけられた高鉾島、長崎台場周辺、長崎湾の入口にあたる伊王島周辺を実見し、撮影を行った。また、長崎湾の南部と西部を結ぶながさき女神橋から長崎市街地へ向かう航路を実見するとともに、当時とほぼ変わらない航跡を撮影した。

16.真田宝物館（長野県長野市松代町）平成28年２月28日～２月29日

○　アヘン戦争が勃発した天保期に、水野忠邦を首班とする幕閣において、古河藩主土井利位（どい・としつら）とともに、海防掛老中に任じられた松代藩主真田幸貫（さなだ・ゆきつら）のもとに遺された海防関係史料について閲覧・撮影を行った。

○　もともと海防強化を唱えていた幸貫のもとに、ラクスマンやレザノフに関する資料も遺されていることを確認した。

17.韮山反射炉（静岡県伊豆の国市）平成28年３月10日

○　韮山反射炉は、大砲を鋳造するため建造され、実際に稼働したものであり、実見することによりその構造について理解を深めることができた。

《韮山反射炉》　全景

《韮山反射炉》炉入口。
周りは伊豆石。炉は耐火煉瓦で作られている。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

18.戸田造船郷土資料館（静岡県沼津市戸田）平成 28 年３月 10 日

○　戸田（へた）は、日本人大工が、ロシア人の指示のもと沈没したロシア軍艦ディアナ号の代替船を建造した地であり、戸田造船郷土資料館にはそれに関する資料が展示されている。日露友好に関する資料も所蔵することを確認した。

《ロシア軍艦ディアナ号の碇》下田沖で難破したディアナ号の碇。

《石碑　ディアナ号の碇由来》造船資料館前に設置された碇の由緒が記されている。

19.戸田港周辺（静岡県沼津市戸田）平成 28 年３月 10 日

○　安政２年下田に来航したロシア使節プチャーチンが乗るディアナ号が沈没したさい、その代替船を建造するため一時ロシア人が逗留していた地域を調査した。

《戸田港》湾口

《様式帆船建造地》
ディアナ号が沈没したため、身動きのとれなくなったプチャーチン・ロシア使節一行は、戸田の大工に洋式帆船の建造を行わせた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

《日露条約交渉地》
ロシア使節が戸田に滞在中の安政 2 年から、戸田で条約に関する交渉が行われた。最終的に、日露条約は下田で締結された。

20. 下田港周辺地（静岡県下田市）平成 28 年３月 11 日

○　ペリー艦隊の乗組員が上陸した地点とされる犬走島周辺はじめ、「和親」条約により開港場となった下田之状況について調査を行った。

《犬走島》日米和親条約を締結した米国ペリー艦隊乗組員が、下田の視察に訪れた際上陸した島。

《下田湊》

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

２．本調査研究成果を基に計画・実施可能な「海の学び」に繋がる博物館活動案

■博物館活動の形態：特別展示
■実施時期：平成３１年夏（予定）
■実施場所：神奈川県立歴史博物館特別展示室他

【実施内容】

■日本の開国は、よく知られているペリーを擁したアメリカではなく、１８世紀末から通商を要求していたロシアによる影響も強かったことを紹する。これにより、「和親」条約締結の５０年以上前から、北方の海を仲立ちにしたロシアとの交流が始まっていたこと、その影響が三浦半島に多くの防衛施設（台場）が造られてことを示す。

■また、日本近海に多くの異国船が出現するというそれまで、「鎖国」を維持するための自然の要害であった「海」が、外国からの人・物・情報が交流する場となっていった様子をも紹介する。

■博物館活動の形態：学習支援事業
■実施時期：平成３１年夏（予定）
■実施場所：神奈川県立歴史博物館

【実施内容】

■上記特別展の内容にそくし、「海」の役割について学ぶ小学生、中学生を対象としたプログラムを開催する

■また、教員向けのプログラムも会わせて実施することで、博学連携の強化に努める。

【他の博物館･機関や地域社会との連携や取り組み内容】

■資料所蔵機関との連携
今回の調査で協力を得た、大黒屋光太夫記念館（三重県鈴鹿市）、根室市歴史と自然の博物館（北海道）、古河歴史博物館（茨城県）、長崎県歴史文化博物館、真田宝物館（長野県長野市）の専門家との連携を強化し、１８世紀から１９世紀にかけての外国との交流の歴史を「海」という場を視点とした共同企画展や学習支援事業に結びつけていきたい。

【特に学校教育との連携について】

■通年を通して、小学生、中学生、高校生を対象とした「海」が異文化交流の場として重要な役割を果たしたことを示す学習プログラムを実施していきたい。
また、学校現場でも博物館資料を活用して、「海の学び」の授業が展開できるよう、教員向けプログラムの開発を進めていきたい。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

【事業全体のまとめ】

■ 通常の調査研究予算では、実施できなかった調査研究がおこなえたことにより、特別展の開催準備を進めることができた。
■ 資料調査が実施できたことで、直接資料所蔵機関の専門家からさまざまな情報を得ることができた。
■ また、直接面識を持ったことで、新たな連携・共同事業を立ち上げる契機となった。

主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1．大黒屋光太夫記念館	資料調査及び関係情報の提供
2．根室市歴史と自然の博物館	ラクスマン来航場所の案内・解説
3．古河歴史博物館	資料調査及び関係情報の提供
4．長崎歴史文化博物館	資料調査及び現地情報の提供
5．真田宝物館	資料調査及び関係情報の提供

主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1．	
2．	
3．	
4．	
5．	

以上

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。